



応援メッセージが町内を走る

西城紫水高等学校 応援幕とステッカー・12/15 **No.6**

西城紫水高校への応援メッセージ「応援してます 西城紫水高」の応援幕をつけた路線バス4台が西城町内を走っています。また、同じメッセージのステッカーも作成され、郵便局や自治振興センターなどに貼られています。

この応援幕やステッカーは、西城紫水高等学校教育振興会が作成したもので、地域ぐるみで学校を支えていこうとする市民の意識を表しています。これまでも応援旗などを作り応援していました。同会会長の吉川由紀さんは、「西城町の宝、西城紫水高校を町民みんなで応援している気持ちを表した。さらに機運を高め、新たな振興策の提案もぜひお願いしたい」と話していました。



▲メッセージを付けたバスが西城支所前に到着

歌でみんな朗らかに

口和郷土資料館 カナリアの会・12/21 **No.5**

口和郷土資料館ロビーを会場に、みんなで楽しく歌う集いの「カナリアの会」が開催されました。この集いは、約9年前から毎月1回第4木曜日に行われ、ピアノやアコーディオン、フルートの生伴奏で、懐かしい童謡や歌謡曲、オリジナル曲などを楽しく歌います。

87回目となった今回、市内外から約30人が参加しました。参加者の中には毎回参加している人もいれば、初めて参加する人もいましたが、一緒になって大きな声でオリジナル曲「水琴の歌」などを歌いました。安部博良館長は「市内外から多くの方に参加してもらっている。この集いを今後も続けていきたいので、多くの方の参加をお待ちしています」と話していました。



▲みんなで歌うと楽しい!

庄原市、華やかに新年を迎える

シルバー人材センターが門松としめ飾りを寄贈・12/23 **No.2**

庄原市シルバー人材センターしめ飾り・門松同好会の会員8人が、約1時間かけて、庄原市役所に門松としめ飾りを設置しました。市役所本庁舎正面玄関の両脇に設置された門松は高さ約2メートルで、松や竹、南天などできれいに飾られていました。

この門松としめ飾りは、竹やわらなどの材料の調達から作成まで、会員自らが行います。とりわけしめ飾りについては、苗の植え付け、刈り取り、乾燥まで行い、10月ごろから作成に取り掛かります。

ことしも立派な門松やしめ飾りが飾られ、華やかに新年を迎えることができました。



▲華やかに飾られた庄原市役所本庁舎正面玄関と会員の皆さん

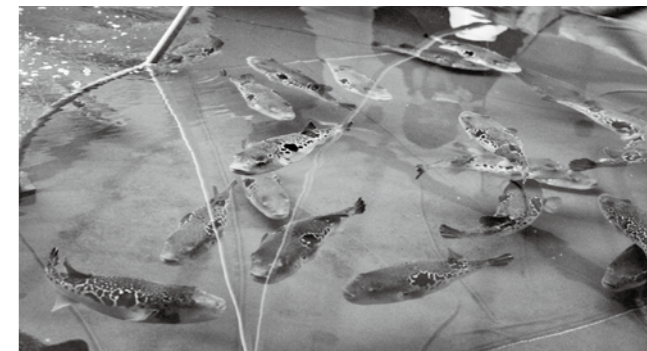
新しいブランド開発に期待

比婆ふぐ(トラフグ)のお披露目会・1/15 **No.1**

グリーンウインズ共同体は、市内で海の幸「トラフグ」の養殖に挑戦しています。現在は実験段階ですが、この養殖には海水ではなく淡水(地下水)が利用されています。同共同体はこの陸上養殖施設を関係者に公開し、刺し身やから揚げなどの試食会を行いました。

陸上養殖では、赤潮や悪天候などの影響を受けず、年間を通して水温も一定。繁殖期間が短くストレスの無い環境で育つため、透けるような白身になるそうです。

同共同体代表の藤光有さんは、「新しい特産品になることを期待している。将来的には庄原の大きな力となれば」と話していました。このフグは「比婆ふぐ」と命名されました。市の新しいブランドとなることが期待されます。



▲いけすを泳ぐ生きのいいトラフグ

ハイレベルな戦い

高野町雪合戦大会・1/13 **No.8**

第19回高野町雪合戦大会が高野小学校体育館で開催され、一般の部とジュニアの部を合わせて8チーム84人が参加しました。室内の雪合戦では、雪玉ではなく室内専用の玉が使用されます。この大会は選手たちで構成する実行委員会が主催し、広島県雪合戦大会の前哨戦として開催されます。高野小学校では授業の一環として取り組んでいます。

当日は一般・ジュニアとも4チーム総当たりのリーグ戦を行い、1セット3分間の3セットマッチで勝敗を競いました。シェルター越しの攻防は見ごたえ十分で、観客からは大きな声援が飛んでいました。実行委員長の中市圭祐さんは「来年は20回目の記念大会になるので、これまで以上に盛り上げたい」と話していました。



▲シェルター越しの攻防

生き物の命に目を向ける

昆虫キーホルダー作り・12/9 **No.7**

2月26日まで、比和自然科学博物館で昆虫絵画展が開催されています。この絵画展は、廿日市市在住の中嶋将史さんの、「自分の作品を通じて小さくも力強く生きる昆虫たちに目を向けてもらいたい」という思いを受け企画されたものです。この関連イベントとして、昆虫キーホルダー作りが行われ、市内の小学生など約40人が参加しました。

参加者は、プラスチックの板に油性インクのペンで思い思いに昆虫の絵を描きました。色を塗った後、その板をトースターで加熱すると、板は縮んで硬化してキーホルダーになりました。参加者の中にはその場でバッグに取り付けて帰る人もいるなど、オリジナルのキーホルダーを作ることができ、満足した様子でした。



▲参加者は透明なプラスチックの板に昆虫の絵を描いた

野鳥の餌がけ

帝釈地区伝統の冬の愛鳥活動・12/24 **No.4**

東城町帝釈未渡の帝釈峡まほろばの里で、帝釈地区の小・中学生とその保護者ら20人が、マキの枝や野鳥の餌台4基に、自宅で栽培して乾燥させたヒマワリの種やトウモロコシの実を据え付けました。冬期の餌不足を補って、ヤマガラやシジュウカラなどの野鳥を保護しようとする地元恒例の愛鳥活動です。

この活動を支援している帝釈自治振興区の職員は、「40年前に餌がけをした子どもたちが、今では自分の子どもを連れて来ている。郷土の自然に対する思いが世代を越えて受け継がれている」と、活動の成果を話していました。野鳥は、松くい虫などを捕食し、森林病害虫を駆除する役割も果たしています。冬の間、時悠館の展望台から観察することができます。



▲ヒマワリの種子を餌台に乗せる親子連れ

感謝の心を育てる

ヒューマンフェスティバル2017・12/3 **No.3**

総領自治振興センターで、「ヒューマンフェスティバル2017」が開催され、地域住民など約100人が参加しました。

5回目となる今回は、一般社団法人「Team友だち100人できるかな」代表理事の小谷彰吾さんが、「健全な土壌には健全な樹木が育つ」と題して講演しました。小谷さんは、自身の経験をもとに「子どもたちに、日本の伝統文化や命の尊さ、感謝することの大切さを伝える必要がある」と語りました。会場には、総領小学校児童の人権の花絵画や総領中学校生徒の人権標語などが展示されました。総領自治振興区区長の山根京司さんは「一人一人が人権を尊重できる地域を目指し取り組みを続けていきたい」と話していました。



▲参加者は小谷さんの話に関心した